

開館5周年記念展

## 愛についての100の物語

Hundred Stories about Love

6

6月の展覧会プログラム June

金沢21世紀美術館では、8月30日まで開館5周年記念展「愛についての100の物語」を開催中です。そのイベントプログラムとして、6月に下記のイベントを実施しますのでお知らせします。

6日(土) 14:00-16:00随時

展示室14 (zone2)



© 幸田森

一柳慧 ICHIYANAGI Toshi

1933年神戸市生まれ、東京都在住。1954年21歳でニューヨークに渡り、ジョン・ケージらと実験的音楽活動を展開。1961年に帰国し、偶然性の導入や図形楽譜を用いた作品を発表。作曲家として、またピアニストとして世界各国で精力的に公演に取り組み、常に現代音楽の最前線を更新しながらプロデューサーとしても多数の企画に携わる。本展では、展覧会のキーワードである「オープン・ダイアログ」そのものをテーマに、円形の展示室空間を参加体験型音響装置に変換するアート・ワークを展開する。

### 一柳慧《オープン・ダイアログ》 ～島田英明(ヴァイオリン)+寒川晶子(ピアノ)

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券が必要です)
- ◎内容 展示室に、少し古びた卓球台が一台。観客がピンポンを始めると、ピンポン球が弾む音が思いがけない音色に変わって空間に響きわたる…。一柳慧が考案した参加体験型アート・ワーク《オープン・ダイアログ》の時間と空間のなかで、ジャンルを超えた先鋭的な活動で国内外の注目を浴びる2人のミュージシャン、ヴァイオリニスト島田英明とピアニスト寒川晶子が会います。

島田英明 SHIMADA Hideaki

1962年生まれ、70年代後半、金沢で発行された音楽誌「Avant Garde」の編集に参加。80年代よりヴァイオリンの即興演奏を開始する。85年、電子変調されたヴァイオリンのテープ音楽プロジェクト「Agencement」を開始。これまでにリリースされたCDは「Viosphere」(1991)、「Boxe Consonantique」(2001)など。近年はリング変調されたヴァイオリンも国内外のライブで演奏、2008年より、都内に於いて即興演奏家達との共演も試みている。

寒川晶子 SAMUKAWA Akiko

2005年フェリス学院大学音楽学部をピアノ専攻で卒業。神奈川県民ホール主催による「塩田千春展&アートコンプレックス」(2007)、金沢21世紀美術館にて「原点から一民族的感性へ 荒野のグラフィズム:粟津潔展への音楽」(2008)で一柳慧とピアノデュオを行う。2008年度東京ワンダーサイト主催「EXPERIMENTAL SOUND FESTIVAL」にて自主公演「虚像になるとき」が最優秀賞を受賞。近年では楽曲演奏のみならず、即興演奏でも積極的に活動をしている。

7日(日) 14:00-16:00(開場13:45)

レクチャーホール



森村泰昌 MORIMURA Yasumasa

1951年大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学卒業後、同大で写真家アーネスト・佐藤の助手を務め、大きな影響を受ける。1985年、ゴッホの自画像に自らが扮して撮影するという手法による大型の写真作品を発表。以後、歴史的名画に自画像を挿入した「美術史の娘」や女優をテーマとした「女優」シリーズ等、セルフポートレイトの表現を探索し続けている。ロシアで社会主義革命を成功させソヴィエト連邦の建国者であるレーニンの演説記録を基に制作された《なにもかへのレイクイエム(人間は悲しいくらいにむなしい)1920.5.5 - 2007.3.2》等、近年では、20世紀の報道写真を題材とし、「政治と戦争の中に現れた男性的なもの」をテーマとした「レイクイエム」シリーズを展開している。

### 森村泰昌&中ザワヒデキ スペシャル対談 「美術についての100の物語」

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券および整理券が必要です)
- ◎内容 森村泰昌と中ザワヒデキが、美術史、愛、物語などをテーマに選んだ、合計100点にのぼる美術史上の作品について語ります。



中ザワヒデキ NAKAZAWA Hideki

1963年新潟市生まれ。千葉大学医学部卒。卒業後眼科医勤務を経て、1990年、CGイラストレーターとして独立。1997年、画素をさらに抽象的な文字等の記号として再構築し、新たな作風に到達。純粋美術家に転身。2000年、「方法主義宣言」を発表し自作を「方法絵画」と命名。2006年以降は「本格絵画」と称し、新作を展開。主な著書に『近代美術史テキスト』『西洋画人列伝』『現代美術史日本篇』、CD『中ザワヒデキ音楽作品集』。

本資料に関する  
お問い合わせ

金沢21世紀美術館

広報担当/落合・岡田

本展チーフキュレーター/不働

キュレーター/黒澤・吉岡・北出・村田・平林・立松

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802

http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



11日(木) 15:00- / 16:30-

12日(金) 14:00- / 15:00-

展示室14 (zone2)



## ビー・バンジー B-BANDJ ラップ・サウンズ・イン・プログレス

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券が必要です)
- ◎内容 “ラップ・サウンズ・イン・プログレス”とは、B-BANDJがこの展覧会のために発案した音の公開制作です。アフリカ、ヨーロッパ、日本を故郷とする生まれながらのコスモポリタンB-BANDJが、日本語、英語、フランス語を操り、展示空間で人や作品とコミュニケーションしながら自由なサウンドを生み出します。

### ビー・バンジー B-BANDJ

1972年名古屋市生まれ、東京都在住。カメルーン人の父とフランス人の母の間に生まれ、アフリカ、日本、ヨーロッパで育ったB-BANDJは、国境やジャンルを超えて軽やかに旅する現代の語り部である。1990年代モンド・グロツのフロント・ラッパーとして活躍し、2001年よりヒップホップグループ癒癒FU-TENのメンバーとして活動する。『Breaking Barriers』(1996年)、『Stand In The Light』(1998年)に続く3枚目のソロアルバム『Where do we go from here ?』(2009年)ではカメルーン語で「神」を意味する曲(LOBA)を自らプロデュースし、現代の絶望と希望をテーマとした。本展では、谷川俊太郎の詩《あい》へのアンサーソング2曲『HOW WE RUN FROM LOVE』、『WE DON'T LEARN HOW TO LOVE. (WE JUST REMEMBER.)』を制作する。

14日(日) 14:00-15:30

レクチャーホール



## 粟津美穂 — 講演 「豊かな国の貧困を生きる子どもたち —アメリカ児童保護ソーシャルワークの現場から」

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券が必要です)
- ◎内容 「私はこのもっとも脆く、もっともユニークで人間らしい子どもたちの鼓動と息吹が伝わるように書きたいと思った」—粟津美穂『ディープ・ブルー』より

感動のドキュメント『ディープ・ブルー』の著者で、アメリカ児童保護ソーシャルワーカーの粟津美穂氏をお迎えし、貧困と暴力を超えて生き延びる子ども達を支える日本の現場に携わる山野良一氏と箱崎幸恵氏と共に「アメリカの現在、これからの日本」を語り合います。

### 粟津美穂 AWAZU Miho

1956年東京都生まれ、シアトル(米国)在住。1978年、渡米。カリフォルニア州立ポリテクニク大学卒業後、時事通信社ロサンゼルス支局記者、フリージャーナリストを経て、1990年代初めよりDV被害者の施設やユース・カウンセリング・プログラムの活動に参加。1995年、南カリフォルニア大学福祉学科で修士号取得後、精神保健局、少年院でのインターンを経て、カリフォルニア州立精神科病院ソーシャルワーカーとなる。2000年よりベンチュラ郡・児童保護局でソーシャルワーカー。著書に『ディープ・ブルー：虐待を受けた子どもたちの成長と困難の記録』(太郎次郎社エディタス)がある。

20日(土) 16:00-17:00

21日(日) 15:00-16:00

zone1&amp;2の通路、展示室11



## 鈴木昭男 —パフォーマンス《あ い し ゃ》

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券が必要です)
- ◎内容 展覧会会場に静かに佇む台車は押されることを待っています。鈴木昭男がこの台車で会場内をドライブ、空間に耳を傾け、音を生み出していきます。身近な素材、オリジナルの楽器を用いて、サウンド・アートのパイオニア鈴木昭男が奏でる音と空間との遭遇を一緒に体感していただくパフォーマンスです。

### 鈴木昭男 SUZUKI Akio

1941年平塚生まれ、京都府在住。1963年、階段のリズムの研究として名古屋駅の階段にバケツ一杯のガラクタを投げ出すというパフォーマンスを発端に、本格的に音楽活動を始める。続いて、自ら創作した「アナラボス」というエコー楽器によるサウンドパフォーマンスを国内外で展開。「なげかけ」「たどり」の行為を繰り返し、街や自然の音を「聴く」ことを探求し続けている。地面に白くペイントした耳と足のようなマークの上に佇み、音に耳を澄ますプロジェクト《点音》を世界各地で実施する等、イベント、パフォーマンス、インスタレーションを通して、周囲の環境との関わりを模索している。

28日(日) 14:00-15:30

レクチャーホール



### 東郷健一講演 「愛についての私の物語」

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券および整理券が必要です)
- ◎内容 一貫して、セクシャルマイノリティや障害者への差別の撤廃を訴え続け、講演、執筆、演劇といった多様な活動を展開してきた東郷健が、「愛についての私の物語」をテーマに語ります。

東郷健 TOGO Ken

1932年兵庫県加古川市生まれ、東京都在住。一貫して、セクシャルマイノリティや障害者への差別の撤廃を訴え続け、講演、執筆、演劇といった多様な活動を展開してきている。衆議院議員選挙や東京都知事選挙にも立候補し続けた経歴を持ち、マイノリティの人権を政治的レベルでも訴え続けた。また、『the gay』の雑誌の編集や発売、『雑民の会』の運営なども通じて、社会における人間の権利を求め続けてきた。自らを「おかま」と敢えて称し自己や他者の問題と向き合う姿勢は、人への献身的な愛、人類への慈悲の重要性を改めて我々に教えてくれる。

28日(日) 閉館後(19:30-20:30)

展示室11 (zone2)



Photo: minarich

### 川上未映子＋坂本弘道＋清水一登 一言葉とピアノとチェロのパフォーマンス

- ◎料金 無料(ただし、「愛についての100の物語」展の観覧券および整理券が必要です)
- ◎内容 2002年に歌手デビュー、以来、詩、小説、随筆、映画など、活動領域を広げている川上未映子が、坂本弘道、清水一登のミュージシャン2名とともに「言葉とピアノとチェロのパフォーマンス」を行います。

川上未映子 KAWAKAMI Mieko

1976年大阪府生まれ。文筆歌手と名乗る川上未映子は、2002年に歌手としてデビューし、以来、詩、小説、随筆、映画など、活動領域を拡大している。女性としての身体、性をモチーフに、独自の表現で言葉と存在の関係を見つめる作品が注目され、2008年に『乳と卵』で芥川賞、2009年に『先端で、さすわ さされるわ そらええわ』で、中原中也賞を受賞。本展では、坂本弘道(さかもと ひろみち)、清水一登(しみず かずと)の2名のミュージシャンとともに「言葉とピアノとチェロのパフォーマンス」を行う。

- ・ 別途、アーティストへのインタビュー取材を希望されるかたはご相談ください。
- ・ 展覧会のプレスリリースは美術館ホームページ(<http://www.kanazawa21.jp/>)フッター部分「プレスリリース」よりダウンロードできます。